

J T S U - E 水地申第 1 号  
2 0 2 2 年 7 月 2 9 日

東日本旅客鉄道株式会社  
水戸支社長 小川 一路 殿

J R 東日本輸送サービス労働組合  
水 戸 地 方 本 部  
執 行 委 員 長 黒 澤 純 一

## 水戸地方本部「第 5 回定期大会」発言に基づく申し入れ（その 1）

2 0 2 2 年 7 月 9 日、J R 東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部は第 5 回定期大会を開催しました。

大会では、すべての仲間と共に「いのち」と「生活」を運ぶ公共交通機関の自覚と責任ある行動を実践し、地域に信頼される安全な鉄道の実現を目指すため、鉄道利用者をも置き去りにする J R 東日本の経営姿勢を是正し、「ひと」を大切にす企業風土を取り戻すこと。そして、「働きがい」「生きがい」「こころの豊かさ」が実感できる J R 東日本グループの未来を創造していくことを確認しました。

そして、私たちは結成以降、輸送・サービスの社会的役割を重んじ、安全で安心な価値ある商品を提供するべく、働く者の労働条件向上と環境改善に努め現場第一の人間の尊厳を重視した健全な J R 東日本・グループ会社を創造し、自由・民主主義を基本とした公正で平等な社会の実現を目指し取り組んできました。

しかし昨年の大会に引き続き、系統問わず「考えられない事故・事象」が繰り返し発生し、安全が脅かされている現実が多く、代議員より発言されました。4 M 4 E を用いて事故・事象の原因究明をすることは重要ですが、結論的に「人（マン）」に起因する背後要因にだけ焦点を当てるのでは意味がありません。原因究明を通じて考えられる全ての背後要因に徹底して向き合い、スイスチーズモデルを踏まえながら早急に万全な対策を講じなければ鉄道の安全風土が崩壊しかねない状況であることに強い危機感を抱いています。

また、今ダイヤ改正で土浦駅において系統分離が実施されましたが、お客さまの利便性が著しく低下し、今なお多くの苦情が上がっていることや、明け番の社員が連日対応している実態が代議員の発言で明らかになりました。ダイヤ改正でサービス品質や利便性・快適性が向上するどころか、お客さま視点から逸脱し、利用者に負担や不便を強いる実施ありきの施策の進め方は日光線での中編成ワンマン運転問題にも表れており到底認めることはできません。

そして過日、週刊文春で報じられた「J R 東日本代表取締役 紹興酒 3 0 本で社員が救急搬送」という記事で、経営幹部が名指しで指弾されました。このような行為は J R 東日本グループの信用・信頼を大きく失墜させるものであり、大会において「社員に説明責任を果たすべき」「怒りもあるが失望した」と当然の発言があったことから、社員の声を真摯に受け

止め、企業体質そのものを正すべきです。

昨今、新型コロナウイルス感染症の第7波が猛威を振るっています。会社は「コロナ禍で時計の針が10年早く回った」として変革のスピードアップを行っていますが、経営戦略を「働き方改革」や「コストダウン」という生産性向上に主軸を置くのではなく、社員やお客様の声に耳を傾け、労働組合の指摘に具体的な回答かつ建設的な議論をしていくことを強く要請します。

よって、JR東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部「第5回定期大会」における代議員の発言に基づき、下記のとおり申し入れますので会社の誠意ある回答を求めます。

## 記

1. 鉄道の安全再確立と安全第一の職場風土を創り出すため、「考えられない事故・事象」や「繰り返し発生している事故・事象」の完封に向けての水戸支社の見解を明らかにすること。
2. 施策を実施するにあたり「サービス品質向上」「利便性向上」に対する認識を明らかにするとともに、安全で働きがいのある現場第一の経営を創造すること。
3. 団体交渉の未開催状況に対しては、開催に至らなかった理由を明確にするとともに労働協約に則り、速やかに団体交渉を開催すること。また、交渉時に労使合意に至った事項は基より、対立事項についても議事録確認として整理し締結調印を行うこと。

以 上